

日本史 思考問題

弘安の役後の1292年に高麗より日本に朝貢を促す国書が来ている。仮定の話として、その後、元が計画していた3度目の襲来が本当に行われた場合、結果はとなるとあなたは考えますか。

A：結果（勝つ・負ける・引き分ける） B：その理由

※Bに関しては、必ず授業で習った歴史用語を1つ以上使用すること。参考として語群や文章中の用語を使用しても構わない。

（語群や文章中に使った言葉）※一部抜粋

石塁	異国警固番役	鎮西探題	本所一円	恩賞不足	得宗専制	三別抄
時宗の死	北条氏一門	永仁の徳政令	霜月騒動	高麗	非御家人	大都
恩賞不足	てつはう	蒙古襲来絵巻	竹崎季長	新羅	寧波	借上 南宋

答案分析について

思考問題分析結果（96人分 文系、理系、フロンティア科）実施：令和元年度学年末考査
勝つ：37人 負け：51人 引き分け：7人 白紙1人

勝つ

- ・2度の襲来により、てつはうや集団戦をわかっているため日本は対策を取り警備する。
- ・日本は備えとして鎮西探題を設置するなどして対策をしているから。
- ・石塁や異国警固番役の強化、鎮西探題など日本の軍事力は強化されているから。
- ・元軍が使用した、てつはうや集団戦法を日本も真似をして戦うと思う。
- ・三別抄の乱を高麗は起こしているため、また仲間割れを起こすと思う。
- ・元軍は広範囲を支配しすぎて統率がとれない。
- ・海から上陸する元にとって石塁は大きい
- ・効果のあった石塁を、さらに研究しもっと強く備える。

負け

- ・元寇後、霜月騒動や永仁の徳政令を出さなければならない状況で情勢が不安定だから。
- ・弘安の役勝利は天気の影響がやはり大きかったと思う。天気が味方するかわからない。
- ・元軍のような集団戦や新しい武器を日本が取り入れた形跡がない。国内が大変。
- ・元軍も石塁の対策をとって作戦を立て攻めてくる。
- ・元寇後の恩賞不足で士気が下がり、また自分の功績の為集団戦で戦おうとしない。
- ・圧倒的な人数と武器があるので対応できない。（元はさらに大きな国になっている）
- ・次は馬を運べるように工夫してくる。
- ・上陸されたら、兵力の差で日本は負ける。

- ・日本が集団戦法を真似しても、元は集団戦法歴が長く、戦略的に負けてしまう。
- ・武士は借金で困窮しており、それどころではない。
- ・3度目は14万人をもっと増やして攻めてくるから。

引き分け

- ・日本が勝ったのは、元軍が混成軍でやる気がなかったから。3度目もその状況は同じ。
- ・お互い戦い方をわかっているので長期化する為、元軍は物資が尽き引き返すと思われる。

減点、もしくは点数なし

- ・日本は油断して警備を怠っている。元の作戦は想像を超えている。
- ・元は2度負けているので人数が減っている。
- ・日本に朝貢を促す使者が来ていることから、日本の後につきたいと考えているから。
- ・他国との貿易によって交流を深めているため、戦うとき他国の仲間がいるから。

※鎮西探題の意味をわかっていない生徒が多い。(役所ではなく、警備の意味でとっている)

※1・2度目と同じ内容を書いている生徒もいる。

反省と課題 (7月22日に話し合った内容)

- ・引き分けは項目として必要なかった。
- ・評価の基準がしっかりと作れていなかった。

定期考査で実施した為、生徒になるべく点数を与える方針で、用語を使い書いているかどうかの判断となった。思考力の部分がそれでは足りないと感じた。

・ほとんどの生徒が教科書通りの説明になっている。逆に考えれば、しっかりと教科書を理解できている。しかし、この問題を出題した目的として歴史的な思考力・表現力を問いたかった。これまで学習した歴史的事項や用語を組み合わせ、それぞれの表現をして欲しかった。数名ではあるが、そのような解答もあった。

- ・授業との連動。定期考査を逆算した授業作りの工夫が必要。